



2020年世界ハビタット・デーに寄せた国連ハビタット事務局長ビデオメッセージ

今年の新型コロナウイルスの世界的な大流行は、都市、まち、コミュニティに住む人々に甚大な影響を及ぼしました。

2020年の「世界ハビタット・デー」は、コロナ危機の影響や、未来に向けて私たちの居住環境をいかにしてレジリエンスの高いものに形作っていくべきなのかを振り返る重要な機会となります。

感染が確認された人の95%は都市部に集中し、感染症流行の震源地となってきました。人であふれかえる病院、雇用の喪失、学校閉鎖や行動の規制といった光景を私たちは見てきました。しかし、私たちはきっと回復できるでしょう。いや、必ず回復します。これまでも「より良い復興、よりグリーンな復興」を成し遂げてきた経験を活かして。

今年の世界ハビタット・デーのテーマ「すべての人に住宅を：より良き都市の未来」には重要な回復の機会が反映されています。

世界中の人々がステイホームと手洗いの徹底を呼びかけられ、住まいは新型コロナウイルス感染防止の最前線として広く認識されています。しかし、不適切な住宅やインフォーマルな居住地、過密住宅、ホームレスや不安定な居住状態にある世界の18億人にとって、このシンプルな対策の実行さえ不可能なのです。

都市やまちは、緊急住宅対策やホームレスの人々のためのシェルターの設置、検疫スペース、立ち退きの延期、給水車の配備など、素早い行動を起こしました。感染が落ち着いた後、このような成果が元に戻ってしまうことがあってはなりません。これらの一時的措置が長期的な政策転換に繋がっていく必要があります。

さもなければ、貧困と格差は更に悪化するでしょう。立ち退きの一時的な中断が解かれ、安定した収入が得られなくなったために家賃や住宅ローンの支払いが滞るとき、何百万という人々が住まいを失う危険にさらされることになります。

同時に、適切な住宅の供給は政府・地方自治体・市民社会・ビジネス社会及びコミュニティが共に負う責任であり、協力して努力することでしか達成できないことを認識しなければいけません。

国連ハビタットは「全ての人に住まいを – Housing for All」という5週間にわたるキャンペーンを立ち上げ、住宅とは単に頭上に屋根があるということだけではない、というメッセージを広めていきます。適切な住宅は、人を安全リスクや健康リスクから守る役割を担います。人が尊厳をもって生活し、帰属意識や幸福や健康を得るための基本的な条件であり、公共空間や雇用機会、病院、学校、そして食糧へのアクセスを可能とする鍵となります。

包括的であり廉価で適切な住宅は、私たちの都市やコミュニティをレジリエンスの高いものへと変革し、そして、SDGs11（住み続けられるまちづくりを）を含めたすべてのSDGsを達成するための中心にあります。

「世界ハビタット・デー」にあたり、私たちは現在の危機に立ち向かうために力を合わせ、解決策を共有し、すべての人のための未来の都市を創造していかなければなりません。**今が行動の時です。**